

第 6 回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

平成 30 年 6 月 19 日(火)

午後 2 時～午後 4 時 15 分

南魚沼市役所 本庁舎 大会議室

1.開会

(進行:片桐企画政策課長)

今日の会議ですが、委員の方 13 名いらっしゃるが、本日 5 名の方が欠席。

本日お配りさせていただいた席順表の裏に名簿があるが、そちらの方に欠席と書かれている方については、本日所用により、こちらに来ていない。

ご出席予定の委員の方は全員揃っているのですが、これより第 6 回となります南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議をはじめさせていただきます。

資料の確認

資料 1-2 裏面の KPI の設定年度が誤っていたので差し替えをお願いしたい。

本日の会議の目的ですが、市がまち・ひと・しごと創生推進事業に取り組んでいる。これの効果検証については、国の様式に基づき、産業界をはじめ、学術機関、金融機関など民間の方々と構成する会議を設けて、そこで効果検証を行いなさいということになっている。

今回は 6 月 1 日に庁内で検証を行わせていただいた。その結果を事前資料として配布させてもらった。

これでいいかどうか意見をいただきたいと思っている。

なお、本日の会議は公開とし会議の議事録については、資料とともに市のウェブサイトに掲載させていただく。あらかじめご了承ください。

2.市長挨拶

(林市長)

任期満了に伴い改選ということで、13 名の方に新たに委嘱させていただいた。今回ご欠席の方もいるが、3 名の方が新任ということで、快く引き受けていただき感謝している。

今、人口減少問題が言われぬ日がなく、その話ばかりをすると最初から嫌になってしまうかもしれないが、全国中で、すべての自治体で将来に渡る大きな課題として誰もが認識して、これにどう打ち勝っていくか、それぞれが知恵を出し合っていくかが課題であります。

南魚沼市も平成 27 年 10 月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定させていただき、以来 3 年間を経ている。これに伴い、地域の再生計画をつくり、国に申請をし、認定を受け地方創生の交付金をいただくような形の中で、そういう意味では早くから取り組んだ

自治体だと思っている。皆さんのおかげだと思っている。貴重な交付金を活用していく中で、本市としてもこの大きな命題である一番の究極の問題である人口減少を食い止めるか、また若者がここに住み着いて、ふるさとを誇りに思って生きて行ってほしい。また外からも人を呼び込むさまざまなことに取り組ませていただいている貴重な部分になっている。

今日は、皆さんから事業の効果等を検証いただくわけだが、このことだけではなくて、私も市長になって1年6か月経つが、今行政がやっているすべてのことが、この目的の中で動いている感がある。そういう中では、例えばふるさと納税もしかり、今回企画プロモーションという形で進めている東京への暑さ対策を含め、2020年のオリンピックへの雪の利用を目標に3年間頑張ってみようということで、計画を立てながら実施している。我々にとっては晴れの舞台にしたいと思っている世界の注目が集まるオリンピックで、雪のエネルギーをアピールできるかだが、本当はその先にある雪エネルギーを活用したこの地域の新しい産業づくりに思いをめぐらせている。そういう計画も含めて、すべては先ほどの繰り返しになるが、この地域の活力を作り上げたいと考えている。

今日は内容を皆様から検証いただくには、短い時間なのかもしれないが、私どもも鋭意力を尽くし、市役所そして民間の皆様と一緒に進めているところである。それぞれ各界のたいへん見識の高い皆さんから忌憚のない意見をいただく中で、更に進めていきたいと考えているので、どうかお力を貸していただきたい。

〈委員紹介〉

3.議題

① 委員長、副委員長の選出について

(片桐企画政策課長)

委員長、副委員長の選出についてお諮りする。この推進会議では、設置要綱の規定により委員長と副委員長を置くことになっている。

事務局案で大変恐縮だが、委員長については、総合戦略策定に中心的に携わっていただき、前回は委員長を務めていただいた熊倉先生から引き続きお願いをしたいと思っている。委員の皆様からご意見を願います。(「なし」という声あり)

それでは熊倉先生を委員長と決定する。前方の委員長席へ移動をお願いする。

(進行:熊倉委員長)

要綱では、副委員長は私が指名することになっている。前回の副委員長は関委員が引き受けくださった。今回欠席だが、若手の経営者で全体をみているということもあり関委員から引き続き副委員長をお願いしたいと思うが、委員の皆さん、それでよろしいか。(「はい」という声あり)

② 平成29年度地方創生推進交付金事業の効果検証について

(熊倉委員長)

平成 29 年度地方創生推進について事務局から説明をお願いします。

資料の見方について

(片桐企画政策課長) 資料 1-1、資料 1-2、資料 1-3

続いて事業内容について

(立川 U& I ときめき課長) 資料 1-2、参考 1 により説明

(腰越商工課長) 資料 1-3、別紙 1 により説明

熊倉委員長	<p>今ほど 2 つの話があった。一つは、CCRC。生涯活躍のまちという形で今、国が盛んに旗を振っている地方圏にアクティブシニアに移っていただくという話。それに対してかなり早くから手を挙げていた南魚沼市が、いろんな問題に直面しているのが素直に出てきた感じがする。</p> <p>もう一つは、長岡を中心とした観光の話だが、これがどれだけ南魚沼市自身にとって関われるかという意味では、なかなか難しい面もあって、全体の数値もこういう数値で、どう評価したらいいのかわかりにくいところがあるかと思う。</p> <p>まず、最初の CCRC の話というのは、マクレラン委員のような方をこの町に増やしたいという、簡単に言えばそういうこと。でも果たしてご本人がこれを見て、今の説明がわかったか、こんなことで本当にいいのか、率直なところをマクレラン委員から口火を切ってください。</p>
マクレラン委員	<p>CCRC は、最初の何回かに参加をさせていただき、会議を傍聴した。もともとの CCRC というのは、海外でなされてきたもので、それは完全にアクティブシニアの富裕層向け。パークの中にゴルフ場あり、全部そろっている。しかしながらそこに親戚が入っているが、気分がめげると言う。どうしてかという若者がいないから。それで日本版はそれを CCRC という名前は継承しても内容は全然違う形ですと。</p> <p>実は三菱総研の松田さんから直接お電話をいただいた。首都圏で女性にアンケートをとったところ、キャリアをお持ちの高学歴の女性ほど嫌がる。それはどうしてかという、年配になると男性も女性もそれほど仕事はしたくないが、便利なところに住みたいという気持ちが強い。</p> <p>私は、松田さんに、私個人はもう欲しいものはないし、手に入れられないものというのは、自然だけであると。それと、のんびりした空気感。私は東京でもかなり恵まれたところに住んでいたの、なんの不自由もしなかったのですが、四季折々の景色や自然は、やっぱり東京ではちょっと無理なんです。個人的にはそういう理由でこっちに戻ってきました。生まれは大和町です。小学生 6 年生まで</p>

	<p>大和町にいました。</p> <p>CCRC については、個人的な意見として、最初の頃、仕事ができるシニアは田舎には来ない。5 年後、10 年後南魚沼市の介護保険とか老人が増えるのをどうするのか。それよりもシングルマザーを連れてきましょうよって何回も申し上げたが、「それは次の課題ということで」と言われて、さらっといなされてきていましたので、同じお金を使うのであれば、アクティブシニアもありがたいが、それだけのことを有効利用できる土壌があるかといったら南魚沼市は多分ないと思っている。最初から否定してはいけませんが、それよりも次の世代を考えて、若い子供持ちの、東京では保育園に仕事をしていないと入れられない、ただ子供がいると仕事にもつけないという人たちに手厚い状態を作って、サポートしてあげる。よしんば、農家の嫁不足も解消するかもしれないというちょっといやらしい発想もあったりして、まったく個人的な意見で申し訳ないが、CCRC で戻ってくるという人は、あまり期待できないと思う。アクティブシニアで生涯現役というのはちょっと無理だと思う。気力もなくなってくる。私も実際ここ 13 年くらい、東京へ時々出稼ぎで仕事をしている。地元でもちょっとはするが、本当に仕事をしたいという時は 40 代くらい。体も結構 60 歳を過ぎると疲れてくるから、CCRC が今の形でたっぷりお金を使うのは、ちょっともったいないと思っている。</p>
熊倉委員長	<p>最初からきちんと辛口の筋の通った話をしていただいた方が、修正、改善、見直しという時には、とても役に立つ。</p> <p>国がお金をつけた項目は、そのまま使いながら、内容を修正改善して、この町にとって有効な方向になるかどうか考えればいいわけだから、今、マクレランさんのお話に対して、藤田委員は見えていらして、どういうふうに感じられたか、創業のことも含めて。</p>
藤田委員	<p>この町をちょっと離れていた期間があったので、適切な話にはできないと思うが、私は、この人口減少とか雇用の話、産業振興ビジョンの会議に参加させていただいているが、一番衝撃だったのは、地元の高校生にアンケートをとった時に、介護、福祉関係の業種に就業したいという意向を持った学生がいるにも関わらず、当地区のそういった施設には来てもらえない。これはどういうミスマッチがあるのかなと、その子たちは果たしてどこに行ってしまうのだろうか。自分の親の面倒を見ずに、他人の親の面倒をみているのかなとか、その辺は全くのミスマッチが生じているのであれば仕方がないけれども、やりようによっては、まだこの地に、この子たちを引き留める余地があるのではないかなというのをまずは感じた。アクティブシニアとは、また違うレベルで、マクレラン委員おっしゃる通り、僕自身も難しい話だなと、初めから思っていた。</p>
熊倉委員	<p>アクティブシニアの移住だけではなくて、若者の移住定住というふうに文言</p>

員長	<p>が入っているのか、どちらにウェイトをきちんと置いていくのか。その時にマクレラン委員のお話であったシングルマザーと固定するのはいかがなものか。言葉の問題もたぶん出てきてしまうと思うが、この若者の移住定住を CCRC、生涯活躍のまち、という国の補助金を利用し、これをどううまく使っていくかというのは、とても重要な視点。制度設計の見直しを少しした方がいいかなというふうに今の話を聞いて思った。</p> <p>それで藤田委員のご質問に対しては、樋口委員は、現場でどう感じているのか。せっかく北里で育った学生たちは、どう考えて動いているのか、ちょっと教えていただくとわかりやすいと思う。</p>
樋口委員	<p>学院は、入学定員 270 名。学科によって違うが、県外からの入学者数が大体半分くらい。その方々を南魚沼市にお迎えして、いかにこちらに残っていただくかというところを僕らとしては、ご協力しなければいけないと思っている。</p> <p>今ほどの説明を聞いて、すごく興味があるのが、イメージソーシャル分析というところでもかなりのお金を使って分析していると思うが、こういった資料というのは、クローズのものなのか、オープンにできるのかというところを聞かせてほしい。そういう意味では南魚沼市を若者がどう見ているかというところは、非常に興味がある。北里だけでなく、いろいろな事業をする場合、企業も興味があると思う。この情報を是非いただきたいということが一つ。</p> <p>全体の感想だが、私は CCRC 推進協議会の方にも入っていて、いろいろ議論もさせていただいているが、若い人ばかりでもダメだし、それからアクティブシニアの人、そういう人たちだけを集めてもいけない。バランスが大切なのかなと思う。この KPI を見ると移住者の数が 100 人というところに対して 29 年度は 89 人というということで、達成率でいうと 89%ということになると思う。CCRC の施設が立ち上がっていない中で 89%の達成率をどう見るかということとは、今後の改善検討の中で必要なのかなと感じている。</p>
熊倉委員長	<p>イメージソーシャル分析の報告書がある程度まとまった段階で、当然公開なさると思うが、いつの段階でどんな公開を考えているのか、教えてください。</p>
U & I ときめき課	<p>先ほど話をしたソーシャルメディアの分析というのは、初めてで、なかなか一般的な統計の分析とは違うので、公表の仕方はだいぶ戸惑っているのが正直なところ。先ほど言ったようにオウンドメディアという施策を使って、どのように若い方が反応してくれるのかということをやっているもので、それがすべてではないという前提があるということをやっているものかな他の方がご理解いただけるものかなという疑問があって、いまだに公開はしていない。</p> <p>それは、まず私どもの方でどのような形でこれを活用できるかということを検討し、今後進められればなと思っているのが一点。こちらの方の調査の概要は、日本中のツイッター上のデータを NTT データからもってきて、キーワード</p>

	<p>を分析して、どのような言葉で反応するのか、どういう時期で反応するのかというのをベースにおいて、キーワードを設置して、私どもがつくったホームページで発信すると、どのような動きがみられるかというもの。このところは先ほど若干話をしたが、思わぬところで反応があった。若い人で反応があるが、すぐホームページを去ってしまう。なかなか横につながってもらえないという傾向があった。私どもU&Iときめき課と商工観光課とで観光などに活かせないかとか、様々な視点から検討中である。それらをまとめて内容の方を公表できたというのが、現在の状況です。決して隠しているつもりはないが、データとしてなかなか扱いが難しいのかなと思っている。</p>
熊倉委員長	<p>扱いが難しいのはわかるが、それを含めて情報公開をしながら多くの市民や関係者が議論をしていくことが次の成果を生むので、担当課の中で苦しまないで、みなさんと一緒に議論をすることが重要だと思う。議会に報告いただく形でもいいと思う。</p> <p>市長、もし今のソーシャルメディアのことにに関して何かご発言ありますか。</p>
市長	<p>今説明があったように、いわゆる普通のアンケートと違って、ものすごくやりづらいんだろうなというのは聞いた通りです。それを使ってどういうことができるかといった時に、こういう調査をして、こういうことをやっているんですということは、話していけるのだけでも、すごく戦略的なところですので、本当のことを言うと黙っていたい部分かもしれません。</p>
熊倉委員長	<p>市長、上手にフォローアップしてくださいましたけれども、でもそれは市民、関係者がなんらかの形で知りたいところが多々あると思いますし、それを素材にして、一課が頭を悩ませるのではなくて、せっかくこういう会議もありますし、CCRCの専門委員会もありますし、いろんなところでそれを議論されることがよいことだと思います。樋口委員の質問をできるだけ有効に使ってほしい。</p> <p>それと mismatch のことについても、それもどこかで調べていく必要があると思うし、またそれは大学側の戦略にもかかわることで、そこに人が来て留まってくれることは、とても大きなことで、有効だと思う。</p> <p>さっきマクレラン委員がおっしゃった形の中で、そういう職種でシングルマザーの方だっているわけで、むしろそういう人たちが働きやすい場所で、さらに本当に農家の嫁になってくれれば二重、三重にプラスアルファになる。（「はい、ちょっといいですか」という声あり）はい、どうぞ。</p>
マクレラン委員	<p>ある方が、年配の人が来たら、その子供たちが訪れたりして、この地を経験してくれるから将来につながるのではないかと言った。ただ、そういう親子の関係性の方は東京にいて自分で面倒をみるはず。全然逆の発想で、年配の方たち、アクティブシニアの人たちに来ていただく、それから次の世代も一緒に来ていただいて、行政の事情はわからないが、南魚沼の待機老人を解消すべく公立の特養</p>

	<p>を増やして、その次の世代の人たちが外から一緒に来ても、その仕事が好きかどうかかわからないが、最低でも職場があるということもアピールできたらいいと思う。</p>
熊倉委員長	<p>同じく若者とか学生のごことで、海外からのトップの方々もお見えになっても戻ってしまうことも多いが、国際大学の関わりの中で、今のような人のOBについて意見があれば、中島委員、お願いします。</p>
中島委員	<p>CCRC につきましては、皆様が言われるように年配の方だけ呼びしてもどこかでバランスが崩れてしまうということはあるかと思う。</p> <p>先般、津久野工業団地にある会社の工場長さんと話をする機会があり、この話をちょっとしてみたが、会社の規模を大きくしたいが、働く人がいないということと、工業団地内でコンソーシアムを組みつつあって、お互いの製品を作りあって外から買ってこなくても地場だけで一つの製品ができるくらいのものをやりたいというようなことを言っていた。そうするにはもうちょっと企業が欲しいということだった。企業を誘致するには、雪対策とか、たくさん障害があって、なかなか東京方面から呼ぶのは難しいかもしれないが、CCRC も市長が冒頭におっしゃられた人口減少対策には一助になることは間違いないと思うが、ここに出てくる資料の中で、そういった若者を呼ぶとか企業を誘致するという資料が全然ないのが、どうなのかなとちょっと疑問がある。そういったところを全体として各年代層に渡って様々なプランを提示し、全体として人口が増えていくというようなスタンスで提案をいただければありがたいと思う。</p> <p>2番目の中越文化・観光産業の方だが、この取り組みをやっているという周知方法に、私が実際の生活の中であまり見かけることがない。観光人数を増やそうと思ったら、やはり今キーワードとなるのは、やっぱり SNS 映え。SNS 映えは10代、20代、30代くらいまでの方は多分 SNS で情報を拡散して影響を受けやすいと思うが、40代以降は同じ情報レベルに到達するのは難しいと思うので、若者を対象として、もうちょっと SNS を活用して映えるようなものを、観光地でもいいですし、食べ物でも、映えるようなものを本気丼(まじどん)はその一つかと思うが、そういったものを全体として打ち出していけるといいと個人的には思っている。</p> <p>本学の状況ですが、委員長が言われたように、大体は卒業すると、この魚沼からは離れてしまうので、なかなか人口増加に結びつくようなことはできていないが、中には残ってここで働きたいという人も極少数ですが実際にいる。働く場所とか外国人を必要とする職種があれば、協力したいと考えている。</p>
熊倉委員長	<p>国際大学はリーダー層を育てるところだが、その下にいる中級の技術者とか職種の方々が、この地域でインターンシップができるような仕組みをつくっていくとまた新しい空気ができるかもしれない。</p>

	<p>今、質問のあった周知ということで、観光で12市町村でこんなに動いているそうだが、矢口委員、実感があるか。これに対する意見があればお願いします。</p>
矢口委員	<p>12市町村で動いているという実感は、ほぼゼロ。</p> <p>私がここにお嫁に来て17年になるが、最初は冬しかやっていなかった。</p> <p>私は市外から来て、ここはやっぱり観光地だなというイメージしかない。</p> <p>ここに人をいっぱい呼ぶには、冬のお客を、夏とか春とか秋に来てもらうのが一番いいと思い、この5年間、宿にいろんな写真をいっぱい飾って、今は、冬に来ていただいたお客さんが、シーズンに必ず1回は来てくれるようになった。そういう宿側の人達の意見も聞いて、取組を進めてほしいと思う。</p>
熊倉委員長	<p>とてもいい意見が出た。</p> <p>これ12市町村の足し算ではなく、この中で独り勝ちできるかどうかという考え方をしたらいいと思う。その積極性を出して欲しい。だからKPI全体がどうこうでなくて、うちはそんなに下がっていない、むしろ上がっているよという独り勝ち。これを見て不思議に思ったのが湯沢町が入っていない。湯沢は一人抜けて、独り勝ちしているから入っていないんだなというのを残念ながら実感した。</p> <p>今、矢口委員の言われたことを逆に腰越課長(商工観光課長)は受けとめて、お付き合いはするけど、その中で比較して、独り勝ちするような観光戦略を組むということの数値だと思ってほしい。</p> <p>羽吹委員、就業やいろんなことの中で、創業者が増えているという数値が出ているが、実感も含めて就労政策についていかがか。</p>
羽吹委員	<p>うちは建設業をやっているが、正直言って人手不足です。特に若い方。なかなか県外から来るというのは非常に難しい現状。</p> <p>今、塩沢商工に機械科の中に土木コースという土木科をつくってもらおうと動いている。機械科の生徒16名が土木コースにいて、昨年、一昨年と卒業して地元就職したというのは何人かいる。そういう働きかけをして、なるべく地元に残る体制をつくりたいと思っている。ただ、どうしても進学する子もいると思う。その人たちがなかなか戻ってくるきっかけがないと思っている。どこの大学、専門学校に行って、いつ頃卒業してという情報が全然ない。何かいい方法はないかと思う。南魚沼市の就職説明会でもいい。昨年も一部のところでやったが、なかなか東京に進学している子供たちが来ていない。多分そういうことをやっていることを知らないと思う。そういう情報を発信できる方法を考えてほしい。子供が戻ってくる方法を一番に考えていかなければいけないと思う。確かにこのCCRCとかもいいと思うが、正直言って建設業から見ると若い子が欲しい。一番心配なのは、冬場の除雪とかそういう若者でなければできない仕事が、今後10年、20年先は、かなり心配になってくる。その辺をもう少し考えてもらえればありがたい。</p>

熊倉委員長	<p>腰越課長、それを少し頭に置いておいてください。南雲教育長の協力を得て何か考えてほしい。お願い致します。</p> <p>大谷委員、皆さんのお話を聞いて、人を運ぶという意味ではどうか。</p>
大谷委員	<p>赤字ローカル線として、ご迷惑をお掛けしている中で、なかなか発言しにくいですが、自分の会社のことは横に置いておいて、鉄道会社にとっては、多くの関係者のいる前で言いにくいですが、観光客が 10 人、20 人増えるよりも、人口が 1 人増える方がありがたい。それは町の力としては、やはり主力となるような、人口が増えるということが一番大きいことなので、それを目指す CCRC というのは、進めていただきたいと思っている。CCRC でアクティブシニアを呼び込もうということで、それは国からの支援もかなりくるんだと。若者を増やそうというのは、もうずっと前から南魚沼市は、取り組んでいたと思うが、なかなか思うようにいかない。じゃあここで CCRC という新しい施策で人口増やしてみようじゃないかということで手を挙げてやってみた。私もそうでしたし、今までの会議の中でも、そういった考え方に疑問の声はいくつか出たと思うが、言い方は悪いが、もうその段階は過ぎていて、もう今、動いている状態になってきている。今日は、交付金事業の評価をする日。CCRC がいいか悪いかではないということになると思う。進め方の問題となると思うが、実際にそうやって南魚沼市としてもある意味本格的にそういう人口増に具体的な事業をかなりの事業費をもって進め始めた 1 年目か 2 年目かということになると思う。それがいいか悪いかは実際にまだ日が経っているわけではないから、まだちょっと答えが早急かなと思う。</p> <p>そういう 1 年目、2 年目ですから、いろいろお互い混乱なり試行錯誤があると思う。ここで何年かやって、私らも勉強し、南魚沼市さんもいろいろ経験して、次のステップに活かしてもらうような形にしてほしいと思う。</p> <p>今、ちょっとこうしてほしい、ああしてほしいというのは、まだ言える段階ではないと思う。ただ、それでも各課長はエネルギーに、この問題に取り組んでいるので、その思いを失わずに、また今年度、来年度と進めていっていただきたいと思う。その気持ちが萎えると元も子もなくなるので、そこを頑張っていたいただきたいと思う。</p>
熊倉委員長	<p>事業の見直し改善の方向性として皆様方の意見とすれば、今回ある程度の効果は出ているが、この枠の中でどんな見直し改善の方向があるかということだと思っている。</p> <p>それで皆さんに聞いた中で、いわゆるアクティブシニアだけではなく、むしろ若者の移住定住を進めていく方向性にこのお金をうまく使ったり、今ほどの成果というのを上手に少しスライドさせていった方がいいのではないか。</p> <p>また 12 市町村でやっている部分についても、うちが優位に進むには、どんな</p>

	<p>観光戦略をここで打って、数字があがればいいわけだから。そういう判断をしていいんだろうなというふうに答えができればいいのかなというふうに思って、皆さま方のご意見を聞いていた。大体そんなところでよろしいですか。</p> <p>何かそれが目に見えるいい数値に変える方法をもう少し知恵を出して、この枠内でできることをやっていきましょうと。そのためには行政も大変だろうが、また委員の皆さんはもっと大変だと思うが、いきなり最初の答えが出る前に、こんな数値なんですよ、これどう思うかというところを間に一回差し挟んだ方がスムーズに進むかなという感じがしたので、意見交換会を少し増やした方がいいのではないか、その点事務局で検討願いたい。</p> <p>他に何かあるか。羽吹委員、どうぞ。</p>
羽吹委員	<p>29年度の実績として89名の方が移住したとなっているが、実際施設がないところで89名の方が移住した。その人たちは、たぶん来たくて移住してきたと思うが、実際に来てみてどうだったかというような聞き取りとかはやったのか。それとお試し居住で24組32名の方が来たが、その人たちは「来たい」と思ったのか、どうなのか。そういう実際来てみたい人、来られた人のアンケートをとったのかどうか。とったのであれば、その結果を教えていただければ、またさらに今後の発展になるのではないかと思うが、それはどうか。</p> <p>あと12件起業してやっているが、実際運営としてうまくいっているのかどうか、かなり苦しんでいるのか、いや、来てよかったと思っているのか、その辺は実際どうなのか教えてくれればありがたい。</p>
U & I ときめ き課長	<p>まず1点目の聞き取りの関係ですが、移住推進協議会(民間団体)で行ったアンケートや聞き取りの部分は、残念ながら私どもの手元に今ない。</p> <p>私どもが関わりを持った方でこちらに住宅を建てたり、将来はこういうことをしたいという方はいる。そういう方は、来ても雪は多分抵抗感がない。ご高齢の方は「自然がよかった」とか「近所との付き合いができた」とか言いますし、若い方は趣味、仕事以外で目的を持って来ている方なので、「大変良かった」という意見をいただいている。</p> <p>2点目のお試し居住の関係ですが、まさに千差万別です。年齢層の高い方もいれば、若い方のグループもいる。「ここってどんな所だろう」と思いながら、来ていただいて、回っていただいて、近所の方とお話をする。そこから接点が増えるというようなところで、お試し体験というのがある。明確に何かを意識してという方ばかりではない。</p> <p>昨年度の実績では、「ちょっといつでも泊まれる」というパターンの実施期間が冬場になり、短かったということもあり、この数字となっている。30年度においては、相談内容に応じてコーディネートしながらそういう方と、もう少し長く交流を深めていきたいと考えている。</p>

商工観光課長	<p>創業支援の12件の全員の方から追跡という形でお話を聞いたということではないが、まず、この12件の方が全員移住者かという話になると全員移住者ではない。市内の方が当然起業した場合もある。例えば移住されて新たにそういう事業を起こされた方というのは、いわゆる積極的な方なので、その方についてはセミナーなどでお会いする機会がある。実際にこの方々については、市の創業支援セミナーを受けていなくても起業されている。基本的に金融機関からお金を借りる場合は、3年～5年以上は事業計画、資金計画を作っている。そんな中で1年目で結果を出すというのは当然考えていないと思う。ただ、やはりやる気がある方たちなので、非常に前向きな方が多いということで、回答とさせていただきます。</p>
熊倉委員長	<p>そんなところでよろしいか。もっと踏み込んで聞きたいことがあるか。</p>
羽吹委員	<p>基本的に来て後悔はしていないわけですね。逆に来て喜んだということは、その話をどんどん言って、それをまたさらに発信する方法を考えれば、もう少し人が来るようになるかもしれないと思う。</p> <p>せっかく CCRC で来た方々が居住する場所を作ったりするきっかけも何か考えなければいけないと思っている。それは今後の話になると思うが。</p>
熊倉委員長	<p>29年度の評価については、市自身が評価したように、ある程度効果はあったし、政策の方向では進んできた。しかし、やっぱりこれを南魚沼市にとっていい形にするためには、改善見直しが必要だ。そのためにはアクティブシニア層だけに絞らないで、もう少し幅広く、本当に若者の移住定住とか創業支援とか、情報発信に積極的に組む必要がある。そのためには、市からも情報公開を頻繁にさせていただきたいし、市が考えているような周りの組織との連携を強めながら、多くの人の意見を聞いて、それを発信しながら、今後高めていく形で改善見直しをするという意見でいいか。</p> <p>また、今後、意見があれば、市に直接申し出てください。</p>

③ 平成30年度地方創生推進交付金の概要

(進行:熊倉委員長)

平成30年度事業について、事務局から説明をお願いします。

(片桐企画政策課長)

30年度交付金の概要 資料3説明、参考2

現在、2つの地域再生計画があるが、3月30日付で、もう一つ地域再生計画を策定した。「雪の聖地 南魚沼へ来らっしゃい」南魚沼ブランドで進める産業振興プロジェクトということで、この新しい地域再生計画により、地域再生推進交付金をいただきながら進めてい

く 30 年度事業とした。

参考 2 として、今ほど申し上げた新しい地域再生計画を添付させていただいたので、後日、御覧いただきたい。

それぞれの事業の内容については、記載のとおりであるが、その事業概要を担当課長から説明させていただく。

続いて事業概要について担当課長より説明あり

(立川 U& I ときめき課長) 資料 3 表面 説明

(腰越商工課長) 資料 3 裏面 説明

熊倉委員長	新しく入った産業振興プロジェクトは、KPI が設定されるのか？
商工観光課長	参考 2 の地域再生計画を見ていただくと 2 ページの目標数値という形で KPI を 4 点設定した。観光交流人口、食による町おこしの人口、市内でのインバウンド宿泊者数、食をテーマにしたスポーツイベントへの経済効果の 4 点。
熊倉委員長	30 年度の事業について説明いただいたので、これに対する意見や希望を聞きたいと思う。矢口委員、観光のことについてどうか。
矢口委員	どこにいても、今インバウンドと言われるが、インバウンドも大事だが、この資料は誰かの意見を聞いて、こういう資料ができたのか、そこがちょっと知りたい。
商工観光課長	この地域再生計画は、当然市が取り組む事業として作らせてもらった。ただ、これを進める中での内容の、どんなものを進めるかについては、雪国観光圏の観光事業者、それから市の観光協会等々に説明し、意見交換をした中で、3 か年で体制づくりに取り組もうということで作らせてもらった。
矢口委員	この地域再生計画の 4-1 に「誘客宣伝したことにより一旦は観光入込数が増加したが、再び訪れてみたくなくなるような魅力を発見し効果的に発信できていなくて再度減少した」と書いてあるが、何が足りなかったという原因が出ていてもいいのかなと思う。私たちは受け入れをしても次につながらない理由をお客さんに聞く。「こういうのがあったらよかった」とか、そういう声が商工観光課に反映されているかという、まったく反映されていないような気が、ここ 2、3 年しないでもないかなというのは思っているが、どうか。
商工観光課長	矢口委員等のお声、市の観光協会も含めて、たぶん私どもの方としてもその辺の聞き取りというところは非常に不足をしていたところだと思う。だからこの中には、民宿をやっぴり中心にしていきたいという考えがあるので、その辺を含めた中で市の観光協会と話し合いをしながら事業を進めたい。これについては今後お話をさせていただきたいと思っている。

熊倉委員長	<p>今、矢口委員が言われたように、現場での苦労だったり、成果をあげたり、少しでも多くのお客様の意見を拾っている方の意見が反映できて、それから戦略が組まれるように進めてほしい。そのためだったらこの観光振興事業費の中にいくつか調査事業が入る中で、そういう会を設けるなど、少し計画を組み替えると、今のことは生きてくるとだろうと思う。「なぜ減少しているのか」、「何を求めているのか」という生の声が反映されることで、戦略的な計画となる。</p> <p>それ以外のことでも意見を求めます。マクレラン委員どうですか。</p>
マクレラン委員	<p>30年度の意見というよりも、一言加えさせてもらおう。</p> <p>今日のこの会場を見ると、非常に私を含めて年齢層が高い。次の世代を担う20代、30代の人達を1人か2人くらいは入れてもいいのではないかと思う。その方たちの目線で、例えばSNSとかいろんなツールを含めて、私たちが想像し得ない、いろいろな意見や見方があると思うので、1人か2人はぜひ入れてほしい。</p>
熊倉委員長	<p>ぎりぎり30代の副委員長が今日欠席ですので(笑)。</p>
マクレラン委員	<p>最近若い人たちと一緒にすることが多く、びっくりするくらい南魚沼が大好きで、エネルギッシュな人達がいる。うれしかったです。そういう人たちがこういう会議に参加することはとってもいいことだと思う。</p>
熊倉委員長	<p>これを公開という形で、そういった人たちにまず傍聴させてほしい。それでその意見をマクレラン委員が拾い、むしろ私たち推進会議で主体的に作り替えようという積極的な動きになるといいと思うので、同業者や従業員を含めて少し考えてください。</p> <p>羽吹委員、いかがですか。</p>
羽委員	<p>この短時間でこれを見て、本年度どうかと言われてもなかなか難しいが、先ほどからいろいろ議論があったと思う。そういうものも含めて30年度やってもらえばいいと思う。</p>
熊倉委員長	<p>大谷委員、どうですか。</p>
大谷委員	<p>今回も事前に資料送ってもらったが、この場に来て、またその資料を読むのであれば、事前に送ってもらわなくてもいい。例えば作った冊子だとかwebのアクセスだとかそういうものを事前に見せていただいて、今日の説明を聞くという方が一番「見える化」になるし、すっきり落ちるところは落ちるといった感じがした。全部は無理だろうけれども、一部代表的なものをそうしてもらえるとありがたい。</p>
熊倉委員長	<p>工夫が必要ですね。お互い補助金をもらって苦労している中でのノウハウの出し合いも含めてやりましょう。中島委員、いかがですか。</p>

中島委員	<p>まず、最初の住まう喜びを感じるまちの方ですが、アプローチするターゲットが首都圏にお住まいの方々向けのアプローチ方法が書いてあって、これはこれでいいと思うが、全然こちらに来たことがない方にいきなり住んでくれというのは、かなりハードルが高いと思う。もう一つターゲットとして有効なのが首都圏からこちらに単身赴任とかで来ている方とか、国際大学にも首都圏の企業派遣生が毎年数十人来ているが、まだその方たちは若いので、すぐに移住するという事はちょっと難しいかと思うが、もしかしたらその親御さんとかにつながる可能性もあるし、同様に北里学院の入学生は半分くらいが県外からということですのでその親御さんとか、そういった範囲にアプローチしていくことがあってもいいかなと感じた。</p> <p>「雪の聖地 南魚沼に来らっしゃい」の方ですが、こちらについては、今までなかった事業が盛り込まれているので、(このまま進めて)いいと思う。</p>
熊倉委員長	<p>この部分は、本当に国際大学のお力を借りないと上滑りになる。ムスリムインバウンドで、国際大学にはちゃんとハラール食があるし、そのリーダー核の方々が大学にかなり来ているので、ここだからできるプログラムが組めるかもしれないので、ちょっと汗をかいていただけないか。</p>
中島委員	<p>先般、市と県と本学で、国際おにぎりコンテストを開催した。南魚沼コシヒカリを使って、テイストをいろんな国のバリエーションでおにぎりを作った。市長にも参加いただいて優勝を選んでいただいた。そういった話題性を作っていくのがアイデアとしてはいいと思った。</p>
熊倉委員長	<p>樋口委員、いかがですか。</p>
樋口委員	<p>今、資料を拝見して、住まう喜びを感じるまち 南魚沼実現プロジェクトについては、基本的には引き続きがんばってやってほしい。</p> <p>裏面の「雪の聖地 南魚沼に来らっしゃい」南魚沼ブランドを進めるという方だが、どんなものがブランドとして整理されるのか非常に興味があって、3か年の中でやられるということだが、南魚沼全体のイメージがよくなるような、そういうものができあがるといいと思った。</p>
熊倉委員長	<p>この事業費は委託料になっているが、コンサルの力だけで出すのか。それとも市民とか有識者の会のようなものを設けて進める形になるのか。</p>
商工観光課長	<p>コンサルも入りますが、市の観光協会、ブランド発信ということで雪国観光圏の中でやるので、市内の事業者等と最初に協議会を作って、どんな形で進めるかの中で順を追って取り組みます。</p>
熊倉委員長	<p>最後、藤田委員、どうでしょう。</p>
藤田委員	<p>自分も「雪の聖地 南魚沼に来らっしゃい」は、非常に新鮮でいいと思つ</p>

員	<p>た。</p> <p>特にムスリムインバウンド推進事業については、非常におもしろい事業だと思うが、事業費がこのくらいだと、どういう事業のイメージなのか、やや不安になるというところと、KPI 方にはムスリムインバウンドの KPI がいないということは、今回はとりあえずちょっとやってみようかという感じで、インバウンドの中でも、どの方がその方なのかというところの集計まではされないのかなとか、この事業費だと仕方ないのかなという思いは、両方あるが、どの程度の事業のイメージをお持ちなのかというちょっと不安に思った。</p>
熊倉委員長	<p>さすが、銀行マン。数字を見ていた。商工観光課長、お願いします。</p>
商工観光課長	<p>ムスリムインバウンドの推進ですが、今想定しているのは、市内にムスリムインバウンド推進協議会という民間の団体がある。そちらの方々がもう既に他のところからムスリムの先進地の講師等を入れてるので、そういう方のお力を借りた中で、研修等を進める。もう一つは先ほど国際大学の話が出たが、国際大学の中にムスリム協議会という協議会がある。そちらの方にも協力をいただきたいと考えている。</p>
熊倉委員長	<p>ムスリムは、雪というのはどう感じているのか。中島委員、わかりますか？</p>
中島委員	<p>ほぼ 100%雪は初めて見るので、悪い印象はなく、1 年とか 2 年なので、楽しんで生活していると思う。ただずっととなるとちょっとわからない。</p>
熊倉委員長	<p>皆様の意見を賜ったが、また事務局側も付け加えることがあったら、どうぞ。大谷委員、どうぞ。</p>
大谷委員	<p>ご存知だと思うが、十日町の観光案内所が駅にできて、大地の芸術祭をやっているから英語力、外国力の高いレベルの高い観光案内所、山間にはそこに力を入れてやっている。数年経つが、私は十日町駅に勤務して感じているのは、本当にこのところ毎日外国人を見ない日がないくらいいる。それくらいしょっちゅう来る。英語はネイティブの方も複数人いて、ほとんど困らない。最近外国人は自分で勝手に調べて日本人も知らないような所に来る。そういう人たちに対してきちんと案内ができれば、来た外国人は満足して、それが連鎖していくという形になるかと思うので、そういった取組は大事だと思う。今までも力を入れていると思うが、そういった部分も参考にさせていただけると、私どもも利益向上になるので、ぜひ頑張っていたきたいと思う。</p>
マクレラン委員	<p>それに対して昨年ちょっとだけ六日町観光協会をお手伝いしたことがあった。南魚沼市にある観光協会の組織を非難するつもりはまったくないが、非常に難しい。南魚沼市観光協会があり、そこは別に六日町観光協会というのがあって、補助金なり予算がないとお聞きした。オファーがきたが、私もタダ働きとい</p>

	うわけにはいかないので、多少なりのようなものでやるよと言ったが、観光協会の在り方が難しいことがあって進まない。市内にバイリンガルの人達はたくさんいる。ただ、声はかからない。私がお手伝いしているのは消防署くらいです。
熊倉委員長	ということだそうです。今すぐ答えなくてもいいが、上手に悩んでいるからこそ相談ください。課長が多分一番悩んでいることだと思う。
マクレラン委員	お金じゃなくて何かお手伝いをしたいと思っていて、手伝ってくださいと言われていたら、ほとんどできることは全部している。無償のところもあるし、交通費程度のところもあるし、何千円とか何万円というところもあるが、お手伝いします。言ってください。
熊倉委員長	いい会議になりました。事務局側から付け加えることがあればお願いします。
企画政策課長	国への報告は、熊倉委員長からまとめていただいた通りで報告させていただくが、今いただいた意見を全部国へ報告するわけではない。これは内部で十分受けとめさせていただいて、30年度の取り組みにさせていただきたいと思う。よろしくお願いします。
熊倉委員長	国には報告すればいいだけ。仕事が動いている、適正に金が動いているということでもいい。しかしそれはそれとして、地域の中で執行部と議会と市民の皆様が情報を共有して苦しみながらも一つでもいい成果を出していくというのが、地方創生の一番のポイントだと思う。今まで知らなかった人が知り合えて、力が出し合えるというのが地方創生の一番の核だと思うので、これからも努力していただきたいと思うし、負担もかけるけれども、引き続きお願いをしたいと思う。

④ まち・ひと・しごと創生総合戦略 全体の進捗状況について

(進行:熊倉委員長)

議題4をお願いします。

(片桐企画政策課長)

・資料2 説明

これは報告事項で、特に意見をいただく部分ではない。総合戦略の中に4つの政策分野がある。黄色くなっている部分が政策分野ごとの目標。白くなっている部分が施策ごとのKPI。中央の縦帯のピンクの欄が29年度の最新数値。

数値の中身については後日事務局に連絡をいただければ答えさせていただく。KPIや目標数値があるが、実際のところどうなのか、よくわからないと言われる。

・参考3で説明。

参考3は県の人口移動調査。転入者、転出者の9月から10月までの年ごとの集計で3段

に分かれている。平成 25 年、平成 27 年、平成 29 年ということで、左が県内の動き、右が県外の動き。25 年を見ると、上が転入、下が転出、その下が転入から転出を引いた数字、そして県外と県内に分かれている。それをまとめたのが最下段になる。ブルーで示した部分、一番下の 29 年、どちらにしても転出超過だが、15 歳～19 歳、20 歳～24 歳、その数値が年々少しずつ下がっているということがわかる。ブルーの数字が職業を理由に転入出した人の差し引き。職業を理由に転出している人が段々減ってきているということになると思う。ピンクで示したものは、学業を理由にして転入出した人の数字。年齢層は 0 歳～19 歳の間ですが、高校を卒業して転出していくという人が大体これに当てはまると思うが、その数値、ピンクの数値はあまり減っていないが、青い部分が減っている。

その原因は何かというと、右側を見ていただくと県外に転出している青い部分が、段々減っているのがわかると思う。ただ、これは差し引きした数字なので、転出が単純に減っているわけではない。これからも分析が必要だと思う。もしかしたら外国人の就業者が入ってきている可能性がある。これらを踏まえてこれからも検討、分析をしていくが、また、皆さんの方でもお気づきのことがあれば、お知らせいただきたいと思う。

(進行:熊倉委員長)

この数値の意味がおわかりになったか。転出を減らしていきたいというのが、大きな目標になっているが、その中で 20 代前半の転出者は職業で転出という意味では減ってきている。ただ学業での転出者は若干増えている。トータルとして転出入は転出超過が減ってきているというのが現状です。トータルとして成果が出ているのではないかと見ているけれども、もう少しこれは踏み込んで見てみないとそういうふうに評価できるかどうか考えているということです。数字がいっぱい並んでいて、どこをどう合わせていけば本当のことがわかるのかわかりにくいですが、現場感覚と数字を合わせながら多様な人々が情報共有することによって現状を考えて、それに対する改善策を考え、関われる人に対して関われる方策を考えていくというのが、これから益々必要になってきたというのが、今日のご意見のまとめでした。

それ以外に事務局の方から何かお話はございますか。

⑤ その他

(片桐企画政策課長)

今日の議事録はこれから作成させていただく。委員の方々に見ていただいた後、ウェブサイトにも資料とともに掲載をさせていただきます。

4.閉会

(進行:熊倉委員長)

また、次回の会議がいつになるかということについて、1年に1回ではなくて、中間で意見交換ができる会を設定していただくとありがたいと思う。

委員の皆様から何か補足することがなければ、これで私は任を解かせていただきたいと
思います。よろしいでしょうか。

それでは、以上で推進会議を終了させていただきます。ご苦労さまでした。